

次期京都市農林行政基本方針（仮称）策定
に係るアンケート調査結果概要

目 次

I	調査概要	1
II	結果のあらまし	3
	(1) 農家	3
	農業経営について	3
	農業の担い手について	4
	販路について	8
	京都市農（林）業振興センターについて	9
	その他	9
	(2) 林家	10
	全般について	10
	担い手について	11
	機械・設備の導入について	12
	(3) 市民	15

I 調査概要

- 1 調査の目的 市の農林行政の方向性を示すために、新たに策定する次期京都市農林行政基本方針（仮称）の策定にあたり、現在の市内農林業の特性や傾向などを分析、考察するためにアンケート調査を実施した。
- 2 調査対象 市内農家，市内林家，市民
- 3 調査方法 郵送配布郵送回収方式
- 4 調査期間 令和2年3月3日～令和2年3月15日
- 5 回収結果

	農家	林家	市民
配布数	997 件	287 件	1000 件
回収数	385 件	106 件	360 件
有効回答数	385 件	106 件	360 件
有効回答率	38.6%	36.9%	36.0%

6 回答者属性

(1) 農家

〈区別内訳〉

〈年齢農業所得別内訳〉

行政区	人数 (人)	百分比 (%)	農業所得							無回答	全体 (人)	百分比 (%)
			200万円未満 (人)	200～400万円未満 (人)	400～600万円未満 (人)	600～800万円未満 (人)	800～1,000万円未満 (人)	1,000万円以上 (人)	年齢			
北区	27	7.0										
上京区	1	0.3										
左京区	40	10.4										
中京区	0	0.0										
東山区	1	0.3										
山科区	29	7.5										
下京区	0	0.0										
南区	73	19.0										
右京区 (京北除く)	33	8.6										
右京区京北	49	12.7										
西京区	53	13.8										
伏見区	77	20.0										
無回答	2	0.5										
計	385	100.0										
			200万円未満 (人)	200～400万円未満 (人)	400～600万円未満 (人)	600～800万円未満 (人)	800～1,000万円未満 (人)	1,000万円以上 (人)	無回答	全体 (人)	百分比 (%)	
			19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上			
			0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
			3	0	2	0	0	1	0	6	1.6	
			10	0	1	1	0	0	0	12	3.1	
			23	1	0	1	1	0	1	27	7.0	
			83	6	3	3	2	1	16	114	29.6	
			161	14	4	1	3	2	35	220	57.4	
			5	0	0	0	0	0	1	6	1.6	
			285	21	10	6	6	4	53	385	100.0	
			74.0	5.5	2.6	1.6	1.6	1.0	13.8	100.0		

(2) 林家

〈区別内訳〉

行政区	人数 (人)	百分比 (%)
北区	22	20.8
上京区	4	3.8
左京区	10	9.4
中京区	2	1.9
東山区	1	0.9
山科区	1	0.9
下京区	4	3.8
南区	8	7.5
右京区 (京北除く)	18	17.0
右京区京北	30	28.3
西京区	1	0.9
伏見区	3	2.8
無回答	2	1.9
計	106	100.0

〈年齢年収別内訳〉

年齢	年取 200万円 未満 (人)	200~400 万円未満 (人)	400~600 万円未満 (人)	600~800 万円未満 (人)	800~1,000 万円未満 (人)	1,000万円 以上 (人)	無回答	全体 (人)	百分比 (%)
19歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
20歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
30歳代	0	0	1	1	0	0	0	2	1.9
40歳代	0	0	3	1	0	2	1	7	6.6
50歳代	0	7	4	1	2	4	1	19	17.9
60歳代	6	6	11	4	5	1	1	34	32.1
70歳以上	15	12	4	2	3	1	6	43	40.6
無回答	0	0	1	0	0	0	0	1	0.9
計	21	25	24	9	10	8	9	106	100.0
百分比 (%)	19.8	23.6	22.6	8.5	9.4	7.5	8.5	100.0	

(3) 市民

〈区別内訳〉

行政区	人数 (人)	百分比 (%)
北区	31	8.6
上京区	26	7.2
左京区	38	10.6
中京区	25	6.9
東山区	7	1.9
山科区	28	7.8
下京区	14	3.9
南区	28	7.8
右京区 (京北除く)	50	13.9
右京区京北	1	0.3
西京区	51	14.2
伏見区	55	15.3
無回答	6	1.7
計	360	100.0

〈年齢性別内訳〉

年齢	性別	男	女	その他	無回答	全体 (人)	百分比 (%)
19歳以下		1	0	0	0	1	0.3
20歳代		11	6	0	0	17	4.7
30歳代		23	10	0	0	33	9.2
40歳代		26	21	0	0	47	13.1
50歳代		41	11	2	1	55	15.3
60歳代		41	17	0	1	59	16.4
70歳以上		81	54	0	6	141	39.2
無回答		0	0	0	7	7	1.9
計		224	119	2	15	360	100.0
百分比 (%)		62.2	33.1	0.6	4.2	100.0	

〈職業別〉

職業	会社員	自営業	公務員	農林漁業	学生	アルバイト パート	無職	その他	無回答	計
人数 (人)	111	34	13	1	3	25	142	20	11	360
百分比 (%)	30.8	9.4	3.6	0.3	0.8	6.9	39.4	5.6	3.1	100.0

Ⅱ 結果のあらまし

(1) 農家

農業経営について

Q 1 農業経営において、課題はあるか。(3つまで)

- | | |
|--|-------|
| 1. 農業経営を引き継ぐ者がいない。 | 51.9% |
| 2. 労働力の確保が困難である。 | 17.4% |
| 3. 農機具の購入やパイプハウス等の施設整備に費用が掛かる。 | 26.2% |
| 4. ほ場の形や面積等の関係で、作業効率が悪い。 | 7.3% |
| 5. 労働量の割には農業収益が少ない。 | 36.9% |
| 6. 農作物の十分な販売先がない。 | 8.6% |
| 7. 農業経営について相談相手がいない。 | 2.1% |
| 8. 栽培技術について相談相手がいない。 | 2.1% |
| 9. 農業用水路、ため池、樋門、農道等の管理の負担が大きい。 | 13.0% |
| 10. 堆肥や野菜残渣の臭いや農薬散布などで苦情を言われる。 | 3.9% |
| 11. 有害鳥獣による農作物への被害がある。 | 33.2% |
| 12. 台風等の自然災害による被害が多い。 | 14.0% |
| 13. 特に課題はない。 | 3.4% |
| 14. その他 | 3.4% |
| 無回答 | 2.9% |

→「農業経営を引き継ぐ者がいない。」が51.9%で最も高く、次いで「労働量の割には農業収益が少ない。」が36.9%、「有害鳥獣による農作物への被害がある。」が33.2%となっている。

Q 2 今後、自らの農業経営をどのようにしていきたいか。

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1. 経営規模を拡大したい。 | 2.3% |
| 2. 現状を維持したい。 | 39.7% |
| 3. 経営規模を縮小したい。 | 14.5% |
| 4. 離農したい。 | 20.3% |
| 5. わからない。 | 17.1% |
| 無回答 | 6.0% |

→「現状を維持したい。」が39.7%と最も高く、次いで「離農したい。」が20.3%、「わからない。」が17.1%となっている。

【Q2で「経営規模を拡大したい。」「現状を維持したい。」と回答された方に質問】

Q3-1 Q2の内容について、取り組むべきと考えることは何か。(3つまで)

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 1. 雇用、労働力を確保する。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 22.8% |
| 2. 農作業を受託する。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 8.6% |
| 3. 新たに農地を借りる。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2.5% |
| 4. パイプハウス等の施設を整備する。・・・・・・・・ | 11.1% |
| 5. 新たな販路を開拓する。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 21.0% |
| 6. 少量多品目の農業を進める。・・・・・・・・・・・・ | 35.2% |
| 7. 特定の品目を大量生産する農業を進める。・・・・ | 9.9% |
| 8. 農作物の6次産業化など、高付加価値化を図る。・・・ | 8.0% |
| 9. スマート農業を導入する。・・・・・・・・・・・・ | 8.0% |
| 10. その他・・・・・・・・・・・・・・・・ | 9.3% |
| 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・ | 14.2% |

→「少量多品目の農業を進める。」が35.2%で最も高く、次いで「雇用、労働力を確保する。」が22.8%、「新たな販路を開拓する。」が21.0%となっている。

【Q2で「経営規模を縮小したい。」「離農したい。」と回答された方に質問】

Q3-2 Q2の内容について、活用しない農地を今後どうするか。

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 1. 保全しながら維持管理したい(手放さない)・・・・ | 29.9% |
| 2. 第三者(親族含む)に貸し付けしたい。・・・・ | 20.9% |
| 3. 売却したい。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 32.8% |
| 4. わからない。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 11.2% |
| 5. その他・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2.2% |
| 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・ | 3.0% |

→「売却したい。」が32.8%で最も高く、次いで「保全しながら維持管理したい(手放さない)。」が29.9%、「第三者(親族含む)に貸し付けしたい。」が20.9%となっている。

農業の担い手について

Q4 現在の農業経営を引き継ぐ方はいるか。

- | | |
|---------------------------|-------|
| 1. いる。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 24.4% |
| 2. いない。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 47.0% |
| 3. わからない。・・・・・・・・・・・・・・・・ | 25.5% |
| 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・ | 3.1% |

→「いる。」が24.4%、「いない」は47.0%となり、約半数の農家が引き継ぐ方がいないと回答。

Q5 新たな担い手確保に向け、何が必要と考えるか。(3つまで)

1. 農家所得を向上させる。・・・・・・・・・・・・・・・・ 61.6%
2. 新規就農を希望する者へのセミナー等を開催する。・・・・・・ 8.6%
3. 定年帰農者等に対する支援を充実する。・・・・・・ 23.1%
4. 農業法人等による雇用を促進する。・・・・・・ 10.6%
5. 農業に必要な農地を確保する。(農地情報の提供や農地の賃貸借の円滑化)・13.0%
6. 農機具や倉庫など、農業に必要な設備を確保する。・・・・・・ 18.7%
7. スマート農業を導入し、労力負担の軽減や栽培技術向上を図る。・・・・ 12.2%
8. 地域農家との交流の機会を設ける。・・・・・・ 7.8%
9. 農業の魅力を発信する。・・・・・・ 20.8%
10. 定住化のための住宅をあっせんする。・・・・・・ 5.2%
11. その他・・・・・・・・・・・・・・・・ 4.7%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・ 13.5%

→「農家所得を向上させる。」が61.6%、「定年帰農者等に対する支援を充実する。」が23.1%、「農業の魅力を発信する。」が20.8%となっている。

Q6 農業の担い手が安定して農業経営を続けるために、何が必要と考えるか。(3つまで)

1. 栽培技術に関する研修・・・・・・・・・・・・・・・・ 26.5%
2. 農業経営に関する研修・・・・・・・・・・・・・・・・ 25.2%
3. 農業用機械や設備等の導入支援・・・・・・・・・・・・ 35.8%
4. パイプハウスや農地の排水等の耕作条件の改善支援・・・・・・・・ 10.4%
5. 農業用水路や農道等の施設の整備や老朽化に対する支援・・・・・・・・ 22.9%
6. 新たな販路開拓に向けた支援・・・・・・・・・・・・ 18.2%
7. ブランド化や消費拡大などに向けた支援・・・・・・・・ 13.8%
8. 台風等の自然災害に対する支援・・・・・・・・・・・・ 22.9%
9. 有害鳥獣対策に関する支援・・・・・・・・・・・・ 26.2%
10. その他・・・・・・・・・・・・・・・・ 5.2%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・ 13.0%

→「農業用機械や設備等の導入支援」が35.8%と最も高く、次いで「栽培技術に関する研修」26.5%と、「有害鳥獣対策に関する支援」が26.2%でほぼ同率となっている。

Q7 スマート農業の導入について、どう取り組んでいるか。

- 1. 既に導入している。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1. 0%
- 2. 導入予定がある。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0. 8%
- 3. 興味はあるが、導入していない。・・・・・・・・・・・・・・・・ 20. 0%
- 4. 導入するつもりがない。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39. 2%
- 5. スマート農業がどのようなものかわからない。・・・・・・・・ 24. 7%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14. 3%

→「導入するつもりがない。」が39.2%と最も高く、次いで「スマート農業がどのようなものかわからない。」が24.7%、「興味はあるが、導入していない。」が20.0%となっている。

【Q7で「既に導入している。」、「導入予定がある。」、「興味はあるが導入していない。」と回答された方に質問】

Q8 スマート農業の導入で、最も導入したい（導入している）ものは何か。（複数回答）

- 1. 自動走行トラクター・コンバイン・・・・・・・・・・・・・・・・ 38. 1%
- 2. 収穫ロボット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17. 9%
- 3. 農業用ドローン（作物の生育状況の撮影、農薬の広域（限定）散布など）・ 26. 2%
- 4. パワーアシストスーツ（重い荷物等の運搬補助）・・・・・・・・ 29. 8%
- 5. 農作物のモニタリングと病虫害の予測システム・・・・・・・・ 27. 4%
- 6. データに基づく生育管理が可能なシステム・・・・・・・・・・・・ 28. 6%
- 7. 水田，ため池，農業用水路の水管理システム（遠隔操作・自動制御）・・・・ 29. 8%
- 8. 果実等の色や形状から熟度を分析して選別するシステム・・・・・・・・ 4. 8%
- 9. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4. 8%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13. 1%

→「自動走行トラクター・コンバイン」が38.1%で最も高く、「パワーアシストスーツ（重い荷物等の運搬補助）」と「水田，ため池，農業用水路の水管理システム（遠隔操作・自動制御）」は同率で29.8%、「データに基づく生育管理が可能なシステム」が28.6%となっている。

【Q7で「既に導入している。」、「導入予定がある。」、「興味があるが導入していない。」と回答された方に質問】

Q9 スマート農業の導入により期待する効果は何か。(2つまで)

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. 農作業の省力化 | 75.0% |
| 2. 収益性の向上による経営の安定化 | 45.2% |
| 3. 収穫量の増加 | 8.3% |
| 4. 品質の向上 | 16.7% |
| 5. その他 | 1.2% |
| 無回答 | 10.7% |

→「農作業の省力化」が75.0%で最も高く、「収益性の向上による経営の安定化」が45.2%、次いで「品質の向上」が16.7%となっている。

【Q7で「既に導入している。」、「導入予定がある。」、「興味があるが導入していない。」、「導入するつもりがない。」と回答された方に質問】

Q10 スマート農業の導入で、課題と考えていることは何か。(3つまで)

- | | |
|--------------------------------|-------|
| 1. 後継者など事業の先行きが見通せず、導入に踏み切れない。 | 33.6% |
| 2. 農業経営が小規模であり、実態に合わない。 | 67.7% |
| 3. 導入コストが高額である。 | 42.6% |
| 4. 導入効果が不明である。 | 17.9% |
| 5. 操作方法が難しそう。 | 5.5% |
| 6. どのような機器が販売されているのかわからない。 | 3.8% |
| 7. どこで購入できるのかわからない。 | 1.7% |
| 8. 技術的に開発段階であり、すぐに導入したい機器が無い。 | 6.0% |
| 9. その他 | 3.0% |
| 無回答 | 9.8% |

→「農業経営が小規模であり、実態に合わない。」が67.7%で最も高く、次いで「導入コストが高額である。」が42.6%、「後継者など事業の先行きが見通せず、導入に踏み切れない」が33.6%となっている。

販路について

Q11 生産する主な農作物の出荷先について、割合が高いものから順に1～3の番号を記載。(割合が最も高いものを記載)

自家用で消費	50.1%
中央卸売市場へ出荷	9.1%
農協へ出荷	6.2%
共同直売所へ出荷(大原里の駅, じねんと市場, 朝市など)	2.3%
地元スーパーや小売店へ出荷	2.1%
料理店へ出荷	1.0%
食品加工会社へ出荷	2.1%
インターネットで通信販売	0.0%
軒先販売, 振売等で販売	9.6%
その他	6.2%
無回答	11.2%

→「自家用で消費」が50.1%で最も高く、「軒先販売, 振売等で販売」が9.6%、「中央卸売市場へ出荷」が9.1%となっている。

Q12 生産する主な農作物について、今後力を入れていきたい出荷先を割合の高いものから順に1～3の番号を記載。(割合が最も高いものを記載)

自家用で消費	45.2%
中央卸売市場へ出荷	8.1%
農協へ出荷	5.7%
共同直売所へ出荷	3.6%
地元スーパーや小売店へ出荷	2.1%
料理店へ出荷	2.6%
食品加工会社へ出荷	2.1%
インターネットで通信販売	0.8%
軒先販売, 振売等で販売	12.2%
その他	5.7%
無回答	11.9%

→「自家用で消費」が45.2%で最も高く、次いで「軒先販売, 振売等で販売」が12.2%、「中央卸売市場へ出荷」が8.1%となっている。

京都市農（林）業振興センターについて

Q13 農（林）業振興センターを利用（電話、職員の訪問含む）される目的は何か。（複数回答）

1. 農業経営に関する支援制度等の相談・申請・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11.4%
2. 農作物栽培に関する相談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8.3%
3. 有害鳥獣被害等に関する相談・申請・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15.1%
4. 農業用水路等の農業用施設に関する相談・申請・・・・・・・・・・・・ 10.6%
5. 台風等の自然災害の対策に関する相談・申請・・・・・・・・・・・・ 9.4%
6. 農用地の活用に関する相談・申請・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6.8%
7. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1.6%
8. 利用したことがない・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50.9%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14.8%

→「有害鳥獣被害等に関する相談・申請」が15.1%、「農業経営に関する支援制度等の相談・申請」が11.4%となっているが、「利用したことがない。」が約5割を占めている。

【Q13で「利用したことがない。」と回答された方に質問】

Q14 その理由は何か。（複数回答）

1. これまで必要とする機会が無かったため・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64.8%
2. 自宅や農地から遠く不便であるため・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5.1%
3. 農協や民間、他の公的な類似施設を利用しているため・・・・・・・・・・ 15.3%
4. 施設を知らなかったため・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25.5%
5. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.6%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.6%

→「これまで必要とする機会が無かったため。」が64.8%と最も高く、次いで「施設を知らなかったため。」が25.5%、「農協や民間、他の公的な類似施設を利用しているため。」が15.3%となっている。

その他

Q16 あなたは、自身の農地を「市民農園」として活用することに興味はありますか。

1. はい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28.1%
2. いいえ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55.3%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16.6%

→「はい」28.1%、「いいえ」55.3%となり、市民農園の活用に「興味がない」人の割合が5割を超えている。

(2) 林家

全般について

Q 1 林業経営において、課題はあるか。(3つまで)

- | | | |
|---|----|----|
| 1. 林業経営を引き継ぐ後継者がいない。 | 41 | 5% |
| 2. 労働力確保が困難である。 | 21 | 7% |
| 3. 機具, 機械, 設備の購入(更新)に費用がかかる。 | 25 | 5% |
| 4. 林道等の基盤整備が遅れており, 作業効率が悪い。 | 9 | 4% |
| 5. 労働量の割には林業収益が少ない。 | 38 | 7% |
| 6. 木材等の十分な販売先がない。 | 15 | 1% |
| 7. 林業経営について相談相手がいない。 | 5 | 7% |
| 8. 所有者不明の森林や施業界が不明な森林が増加している。 | 2 | 8% |
| 9. 林齢や樹種などの所有する森林の情報が分からない。 | 1 | 9% |
| 10. 伐採や搬出, 製造などで発生する騒音や振動等に近隣から苦情を言われる。 | 0 | 9% |
| 11. 有害鳥獣による食害がある。 | 22 | 6% |
| 12. 台風等の自然災害による被害が多い。 | 35 | 8% |
| 13. 特に課題はない。 | 1 | 9% |
| 14. その他 | 6 | 6% |
| 無回答 | 12 | 3% |

→「林業経営を引き継ぐ後継者がいない。」が41.5%で最も高く、次いで「労働量の割には林業収益が少ない。」が38.7%,「台風等の自然災害による被害が多い。」が35.8%となっている。

Q 2 今後、林業経営をどのようにしていきたいか。

- | | | |
|--------------------------|----|----|
| 1. 経営規模を拡大したい。 | 9 | 4% |
| 2. 現状を維持したい。 | 34 | 0% |
| 3. 経営規模を縮小したい。 | 13 | 2% |
| 4. 廃業したい。 | 16 | 0% |
| 5. わからない。 | 16 | 0% |
| 無回答 | 11 | 3% |

→「現状を維持したい。」が34.0%で最も高く、次いで「廃業したい。」「わからない。」が16.0%,「経営規模を縮小したい。」が13.2%となっている。「経営規模を拡大したい。」は9.4%で約1割となっている。

【Q2で「経営規模を拡大したい。」「現状を維持したい。」と回答された方に質問】

Q3 Q2の内容について、取り組むべきと考えることは何か。(3つまで)

1. 新規就業者や後継者を確保する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41.3%
2. 経営力のある林業経営体等に森林の経営管理を委ねる。・・・・・・・・ 10.9%
3. 森林経営管理法に基づく経営管理実施権を受任する。・・・・・・・・ 10.9%
4. 高性能林業機械や最新鋭の製造機械等を導入する。・・・・・・・・ 17.4%
5. 特用林産物(キノコ等)の生産を行う・・・・・・・・・・・・・・・・ 6.5%
6. チップやペレットなどの燃料材の生産を行う。・・・・・・・・ 4.3%
7. 経営・販売力を高める。・・・・・・・・・・・・・・・・ 30.4%
8. 木材生産,加工,流通,販売の枠を超えて業態を広げる。・・・・・・・・ 37.0%
9. その他・・・・・・・・・・・・・・・・ 10.9%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・ 17.4%

→「新規就業者や後継者を確保する。」が最も高く41.3%,次いで「木材生産,加工,流通,販売の枠を超えて業態を広げる。」が37.0%,「経営・販売力を高める。」が30.4%となっている。

担い手について

Q4 現在の林業経営を引き継ぐ方はいるか。

1. いる。・・・・・・・・・・・・・・・・ 29.2%
2. いない。・・・・・・・・・・・・・・・・ 54.7%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・ 16.0%

→引き継ぐ方が「いる。」が29.2%,「いない。」が54.7%となっている。

Q 5 担い手確保に向け、何が必要と考えるか。(3つまで)

- 1. 新規就業を希望する者へのセミナー等を開催する。 7. 5%
- 2. 林業大学校などの公的な人材育成機関を充実する。 11. 3%
- 3. 異業種等の新規参入を促進する。 6. 6%
- 4. 外国人労働者を確保する。 7. 5%
- 5. 継続的な雇用を図る。 22. 6%
- 6. 林業経営に必要な機械や設備を確保する。 13. 2%
- 7. 経営所得の安定を図る。 58. 5%
- 8. 林業の魅力を発信する。 22. 6%
- 9. 安全な労働環境を確保する。 23. 6%
- 10. その他 8. 5%
- 無回答 18. 9%

→「経営所得の安定を図る。」が 58.5%と最も高く、次いで「安全な労働環境を確保する。」が 23.6%, 「継続的な雇用を図る。」と「林業の魅力を発信する。」は同率で 22.6%となっている。

機械・設備の導入について

Q 6 機械設備の導入状況を教えてください。

- 1. 既に機械化を進めている。 12. 3%
- 2. 最新の機械の導入予定がある。 1. 9%
- 3. 興味はあるが、導入していない。 24. 5%
- 4. 導入するつもりがない。 42. 5%
- 5. どのような機械があるかわからない。 2. 8%
- 無回答 16. 0%

→「導入するつもりがない。」が 42.5%と最も高く、次いで「興味はあるが、導入していない。」が 24.5%, 「既に機械化を進めている。」が 12.3%となっている。

「既に機械化を進めている。」と「最新の機械の導入予定がある。」を合わせると 14.2%となっている。

【Q6で「既に機械化を進めている。」、「最新の機械の導入予定がある。」「興味はあるが、導入していない。」と回答された方に質問】

Q7 最も導入したい（導入している）ものは何か。

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1. 高性能林業機械 | 34.1% |
| 2. 製材加工設備等 | 19.5% |
| 3. 運搬車両・機材等 | 26.8% |
| 4. 経営管理システム [財務, 在庫管理, GIS等] | 12.2% |
| 5. その他 | 7.3% |
| 無回答 | 24.4% |

→「高性能林業機械」が34.1%で最も高く、次いで「運搬車両・機材等」が26.8%、「製材加工設備等」が19.5%となっている。

【Q6で「既に機械化を進めている。」、「最新の機械の導入予定がある。」「興味はあるが、導入していない。」と回答された方に質問】

Q8 機械設備の導入で期待する効果は何か。（2つまで）

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. 作業の省力化 | 39.0% |
| 2. 作業の安全性の向上 | 41.5% |
| 3. 収益性の向上による経営の安定化 | 39.0% |
| 4. 施業量や生産量の増加 | 26.8% |
| 5. 製品等の高規格化や品質の向上 | 9.8% |
| 6. その他 | 0.0% |
| 無回答 | 9.8% |

→「作業の安全性の向上」が41.5%で最も高く、次いで「作業の省力化」と「収益性の向上による経営の安定化」が同率で39.0%となっている。

【Q6で「既に機械化を進めている。」「最新の機械の導入予定がある。」「興味はあるが、導入していない。」「導入するつもりがない。」と回答された方に質問】

Q9 機械設備の導入で、課題と考えていることは何か。(2つまで)

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| 1. 後継者など事業の先行きが見通せず、導入に踏み切れない。・・・・・・ | 32.6% |
| 2. どこで購入(相談)できるのかわからない。・・・・・・ | 0.0% |
| 3. 導入コストが高額となる。・・・・・・ | 45.3% |
| 4. 導入効果が不明である。・・・・・・ | 19.8% |
| 5. 機械設備を使いこなせる人がいない・・・・・・ | 8.1% |
| 6. 操作方法が難しそうだ。・・・・・・ | 3.5% |
| 7. その他・・・・・・ | 9.3% |
| 無回答・・・・・・ | 15.1% |

→「導入コストが高額となる。」が45.3%と最も高く、次いで「後継者など事業の先行きが見通せず、導入に踏み切れない。」が32.6%、「導入効果が不明である。」が19.8%となっている。

(3)市民

Q1 農業に対するイメージについて

①そう思う, ②ややそう思う, ③そう思わない, ④わからない, ⑤無回答

1 身近に感じる

.....①23.6%, ②37.5%, ③32.2%, ④5.0%, ⑤1.7%

2 魅力を感じる (自身も従事してみたい)

.....①9.7%, ②34.2%, ③46.7%, ④7.5%, ⑤1.9%

3 儲かりそうである

.....①2.5%, ②15.6%, ③65.3%, ④15.3%, ⑤1.4%

4 社会的意義がある

.....①64.7%, ②28.6%, ③1.9%, ④3.6%, ⑤1.1%

5 将来性がある

.....①19.2%, ②44.2%, ③23.1%, ④12.2%, ⑤1.4%

6 重労働であったり, 危険を伴ったりする

.....①35.8%, ②49.7%, ③10.3%, ④2.8%, ⑤1.4%

7 自然災害などのリスクが高い

.....①66.4%, ②26.9%, ③3.1%, ④2.5%, ⑤1.1%

Q2 市内の農地・農業にどのような機能や役割を期待するか。(3つまで)

1. 新鮮で安全な農作物の供給.....89.4%

2. 農業体験等の自然と触れ合える身近なレクリエーションの場の提供.....22.5%

3. 農業体験や食育などの教育や学習の場の提供.....47.8%

4. 園芸療法や障害者の雇用などの医療や福祉としての機能.....25.6%

5. 景観や生物多様性等の環境保全としての役割.....40.8%

6. 災害時の避難場所, 洪水防止など, 防災としての機能.....20.3%

7. その他.....1.7%

無回答.....1.9%

→「新鮮で安全な農作物の供給」が89.4%, 「農業体験や食育などの教育や学習の場の提供」が47.8%, 「景観や生物多様性等の環境保全としての役割」が40.8%となっている。

Q3 市内の農地を今後、どのようにすべきと考えるか。

- 1. 農地として維持すべきだ。・・・・・・・・・・・・・・・・ 67.5%
- 2. 農地以外に活用すべきだ。・・・・・・・・・・・・・・・・ 5.8%
- 3. 農地を増やすべきだ。・・・・・・・・・・・・・・・・ 11.4%
- 4. わからない。・・・・・・・・・・・・・・・・ 11.1%
- 5. その他・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.5%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・ 1.7%

→「農地として維持すべきだ。」が67.5%と最も高く、次いで「農地を増やすべきだ。」が11.4%、「わからない。」が11.1%となっている。

Q4 市内の農地で農業体験をしてみたいと思うか。(複数回答)

- 1. 市民農園を利用して野菜栽培等を体験してみたい。・・・・・・・・ 30.0%
- 2. 農家の農作業を手伝ってみたい。・・・・・・・・・・・・・・・・ 21.7%
- 3. 農業体験をしてみたいと思わない。・・・・・・・・・・・・ 39.4%
- 4. 農業体験を既に行っている。・・・・・・・・・・・・・・・・ 10.6%
- 5. その他・・・・・・・・・・・・・・・・ 7.8%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・ 3.9%

→「農業体験をしてみたいと思わない。」が39.4%と最も高く、次いで「市民農園を利用して野菜栽培等を体験してみたい。」が30.0%、「農家の農作業を手伝ってみたい。」が21.7%となっている。

Q5 農作物を購入する際の基準は何か。(3つまで)

- 1. 安全・安心であること。・・・・・・・・・・・・・・・・ 81.7%
- 2. 新鮮であること。・・・・・・・・・・・・・・・・ 75.8%
- 3. 色、形、味が良いなどの品質が良いこと。・・・・・・・・ 20.0%
- 4. 価格が安いこと。・・・・・・・・・・・・・・・・ 46.1%
- 5. 京都市内産であること。・・・・・・・・・・・・・・・・ 8.6%
- 6. 旬のものであること。・・・・・・・・・・・・・・・・ 35.8%
- 7. 気にしない。・・・・・・・・・・・・・・・・ 3.3%
- 8. その他・・・・・・・・・・・・・・・・ 1.9%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・ 1.1%

→「安全・安心であること。」が81.7%と最も高く、次いで「新鮮であること。」が75.8%、「価格が安いこと。」が46.1%となっている。

Q 6 京都の農業振興のために、京都市はどのような取組に力を入れるべきだと思うか。
(3つまで)

1. 農業後継者や新規就農者など、農業の担い手を確保・育成する。・・・70.3%
2. 農地整備など、農業のしやすい環境を整える。・・・33.3%
3. 学校給食や病院食などに市内産農作物を使用する。・・・29.2%
4. 農作物の直売所を整備する。・・・23.6%
5. 台風等の自然災害に強い農業を進める。・・・19.4%
6. 市民がボランティア等で農作業に関わる機会を作る。・・・9.7%
7. 農業に関する情報提供や普及啓発を推進する。・・・11.1%
8. 農産物や加工品等を集めたイベントを実施する。・・・9.7%
9. 農業体験や食育を推進する。・・・11.7%
10. イノシシ、シカ等による農作物被害を防止する。・・・22.8%
11. 地産地消の取組を進める。・・・23.9%
12. その他・・・3.6%
- 無回答・・・1.7%

→「農業後継者や新規就農者など、農業の担い手を確保・育成する。」が70.3%で最も高く、次いで「農地整備など、農業のしやすい環境を整える。」が33.3%、「学校給食や病院食などに市内産農作物を使用する。」が29.2%となっている。

Q 7 京都市では、大学等と連携して、新しい野菜「新京野菜」の開発・導入を進めているが、知っているか。

1. 知っている。・・・17.5%
2. 知らない。・・・81.9%
- 無回答・・・0.6%

→「知らない」が81.9%、「知っている。」が17.5%となっている。

Q8 河川の漁業振興のため、京都市はどのような取組に力を入れるべきだと思うか。

(2つまで)

- 1. 天然アユが帰ってくる自然豊かな川づくりを支援する。・・・78.9%
- 2. 漁協による魚の放流を支援するなど、水産資源の確保に取り組む。・・・46.1%
- 3. 魚のつかみ捕りや釣り、投網など漁業体験など川に触れる機会を作る。・・・13.6%
- 4. 川魚やその加工品が手に入れやすい環境整備に取り組む。・・・11.9%
- 5. 河川の漁業に関する情報提供や普及啓発を推進する。・・・20.8%
- 6. その他・・・4.2%
- 無回答・・・1.7%

→「天然アユが帰ってくる自然豊かな川づくりを支援する。」が78.9%と最も高く、「漁協による魚の放流を支援するなど、水産資源の確保に取り組む。」が46.1%、「河川の漁業に関する情報提供や普及啓発を推進する。」が20.8%となっている。

Q9 林業に対するイメージについて

①そう思う、②ややそう思う、③そう思わない、④わからない、⑤無回答

1 身近に感じる

・・・①9.4%、②18.9%、③61.1%、④10.3%、⑤0.3%

2 魅力を感じる（自身も従事してみたい）

・・・①3.6%、②16.9%、③67.5%、④11.4%、⑤0.6%

3 儲かりそうである

・・・①0.8%、②10.0%、③70.0%、④18.6%、⑤0.6%

4 社会的意義がある

・・・①48.6%、②38.1%、③3.6%、④9.2%、⑤0.6%

5 将来性がある

・・・①9.4%、②24.2%、③46.1%、④20.0%、⑤0.3%

6 重労働であったり、危険を伴ったりする

・・・①65.6%、②28.1%、③2.5%、④3.6%、⑤0.3%

7 自然災害などのリスクが高い

・・・①61.7%、②31.1%、③2.8%、④4.2%、⑤0.3%

Q10 森林・林業にどのような機能や役割を期待するか。(3つまで)

1. 住宅等で使用する木材の供給・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37.5%
2. 雨水の貯留, 水質の浄化など水資源の保全・・・・・・・・・・ 53.6%
3. 生物多様性の維持, 大気の浄化, 地球温暖化の防止などの環境保全・・・・ 66.9%
4. 北山杉の美林, 竹林, 京都三山などの森林景観の保全・・・・・・・・ 29.2%
5. 洪水の緩和や土砂崩れなどの災害防止・・・・・・・・・・・・ 60.3%
6. 教育や学習の場の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4.4%
7. 行楽やスポーツ, 癒し等, 自然と触れ合える身近なレクリエーションの場の提供
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10.8%
8. 伝統的な産業, 文化, 行事等の原材料の供給・・・・・・・・・・ 14.4%
9. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0.6%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0.6%

→「生物多様性の維持, 大気の浄化, 地球温暖化の防止などの環境保全」が 66.9%と最も高く, 次いで「洪水の緩和や土砂崩れなどの災害防止」が 60.3%, 「雨水の貯留, 水質の浄化など水資源の保全」が 53.6%となっている。

Q11 林業に就業すると仮定した場合, どのようなことが必要と思うか。(2つまで)

1. 高収入又は安定した収入であること・・・・・・・・・・・・・・ 60.3%
2. 安全に作業できる労働環境が整えられていること・・・・・・・・ 68.6%
3. 女性が働きやすい職場環境であること・・・・・・・・・・・・・・ 13.9%
4. 住宅や宿舍の提供(支援)が充実していること・・・・・・・・・・ 12.5%
5. 職場体験やインターンシップが行われること・・・・・・・・・・ 9.7%
6. 林業大学校などの公的な人材養成機関が充実していること・・・・ 16.7%
7. 林業就業セミナーなどの開催が充実していること・・・・・・・・ 7.2%
8. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1.4%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1.7%

→「安全に作業できる労働環境が整えられていること。」が 68.6%, 「高収入又は安定した収入であること。」が 60.3%, 「林業大学校などの公的な人材養成機関が充実していること。」が 16.7%となっている。

Q12 京都市の森林や林業にどのような関わりを持ったことがあるか。(3つまで)

1. 京都市内産木材を使用した木製品などを購入している。・・・・・・・・・・ 9. 4%
2. 市内産の林産物(キノコ, 山菜, 木の実, 木炭, 薪など)を購入している。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37. 2%
3. ハイキング, キャンプ, バーベキューなどで市内の森林を訪れたことがある。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56. 4%
4. 植物や昆虫採集等で市内の森林を訪れている。・・・・・・・・・・ 11. 7%
5. 市内の森林で自然学習会や植林活動などに参加したことがある。・・・・ 6. 9%
6. テレビや新聞, 雑誌等で市内の森林に関する情報に触れ関心を持ったことがある。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28. 9%
7. 庭の借景や景観として楽しんでいる。・・・・・・・・・・ 26. 1%
8. 森林や木材(木工等を含む)に関わる仕事をしている。・・・・ 2. 2%
9. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6. 1%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6. 4%

→「ハイキング, キャンプ, バーベキューなどで市内の森林を訪れたことがある。」が56.4%, 「市内産の林産物(キノコ, 山菜, 木の実, 木炭, 薪など)を購入している。」が37.2%, 「テレビや新聞, 雑誌等で市内の森林に関する情報に触れ関心を持ったことがある。」が28.9%となっている。

Q13 京都市では, 市内産木材を「みやこ杉木」として認証する取組をしていますが, 知っていますか。

1. 知っている。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4. 2%
2. 知らない。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95. 3%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0. 6%

→市内産木材を「みやこ杉木」として認証する取組についてみると, 「知らない。」が95.3%, 「知っている。」が4.2%となっている。

Q14 市内産木材を積極的に使用したいか。

1. 使用している。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5. 6%
2. 使用してみたい。・・・・・・・・・・・・・・・・ 51. 4%
3. 使用する予定はない。・・・・・・・・・・・・ 30. 0%
4. 興味が無い。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5. 6%
5. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6. 4%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1. 1%

→「使用してみたい。」が51.4%で最も高く, 次いで「使用する予定はない。」が30.0%, 「使用している。」と「興味が無い。」が同率で5.6%となっている。

Q15 京都の森林の保全や林業振興のため、京都市はどのような取組に力を入れるべきだと思うか。(3つまで)

1. 森林を整備する人材や林業の担い手を育成する。・・・・・・・・・・ 71.4%
2. 放置され荒廃している森林を整備する。・・・・・・・・・・ 56.9%
3. 公共施設、病院、保育所、介護施設など公的施設で市内産木材を率先的に使用する。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23.9%
4. 住宅やオフィスビルなどでの市内産木材の利用について支援する。・・・・ 11.1%
5. 木質バイオマス発電事業など化石燃料からの代替を進める。・・・・・・ 10.8%
6. 倒木の未然防止など、災害に強い森づくりを進める。・・・・・・・・・・ 31.4%
7. 市民がボランティア等で森林に関わる機会を作る。・・・・・・・・・・ 12.8%
8. 森林や林業に関する情報提供や普及啓発を推進する。・・・・・・・・・・ 7.2%
9. 京都の伝統や文化財を継承する原材料を育てる森づくりを進める。・・・・ 13.3%
10. 美しい森林景観や多様な生物の生息環境を守り伝える。・・・・・・・・ 18.3%
11. イノシシ、シカ等による農作物や市民生活の被害を防止する。・・・・・・ 16.9%
12. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1.7%
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1.1%

→「森林を整備する人材や、林業の担い手を育成する。」が71.4%で最も高く、次いで「放置され荒廃している森林を整備する。」が56.9%、「倒木の未然防止など、災害に強い森づくりを進める。」が31.4%となっている。